

金（ゴールド）価格の見通し

今回の急落は中長期的な上昇トレンドのなかでの調整

2026年2月3日

地政学的リスクの高まりのなかで、中期的な上昇トレンドは続く

2026年1月29日（NY時間、以下同じ）に史上最高値を更新していた金先物価格が、1月30日に急落しました。週明けの2月2日も続落し、2日間の下げ幅は終値ベースで700米ドル（約13%）を超えるました。金先物価格は2024年以降大幅に上昇しています。特に2026年に入り騰勢を強め、年初来での上昇率は一時23%（1月29日終値）に達するなど、過熱感が強い中での調整となりました。

急落の背景として、以下の2つが挙げられます。1つ目は、急落前の高騰による利益確定と思われる売りが膨らんだことです。金は政治・経済などを巡る将来の不確実性に対して、資産価値を保存する「安全資産」とされています。最近では金ETFへの資金流入も旺盛となっており、米国による対イランへの軍事行動、グリーンランドを巡る米欧対立などが、安全資産である金の相場を急激に押し上げる要因となりました。2つ目は、米連邦準備制度理事会（FRB）の次期議長にウォーシュ氏がトランプ米大統領によって指名されたことで、これが急落の直接の引き金になったと考えられます。市場では次期議長には、ハト派色が濃い人物が指名されると期待されていましたが、元FRB理事の同氏はタカ派的な位置付けの人物でした。

今後の金相場については、世界規模での地政学的リスクの高まりのなかで、中期的な上昇トレンドは続くと考えます。ただし、米国の利下げ期待の後退による下方圧力にも注意する必要があります。

市場が織り込む1年先の米政策金利と金価格

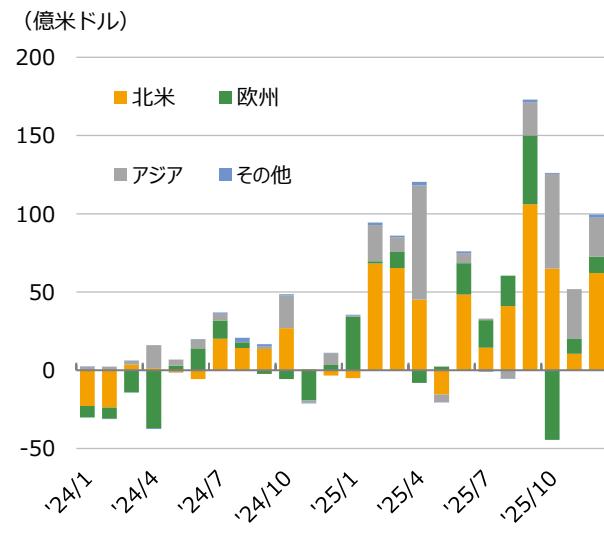


*1年先1ヶ月金利=市場が織り込む1年先の政策金利

*直近値は2026年2月2日

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

金ETFの地域別資金フローの推移



*直近値は2025年12月

(出所) World Gold Councilより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management